

【 復活のトロパリ 第6調 】

てんしのぐんなんぢのはかにあらわれしに、
 天使 軍 爾 墓 現

ばんぺいしせしもののごとし、マリアはか
 番 兵 死 者 如 墓

にたちて、なんぢのいさぎよきからだをたづね
 立 爾 潔 體 尋

たあり。なんぢはぢごくにいざなわれず
 爾 地 獄 誘

して、ぢごくをとりこにし、いのちをた賜
 地 獄 虜 生 命 賜

もうものとして、しよぢよにあいたまえり。
 者 處 女 逢 給

しよりふくかつせししゅよ、こうえいは
 死 復 活 主 光 榮

なんぢにきいす。
 爾 歸

【 日本の亜使徒聖ニコライのトロパリ 第4調 】

しととひとしくどうざなるもの、ちゅう
 使 徒 等 同 座 者 忠

じつにしてしんちなるハリストスのえきしゃ、せい
 實 神 智 役 者 聖

なるしんにえらばれたるふえ、ハリストスのあい
 神 撰 笛 愛

にみちたるうつわ、わがくにのこう
 満器我 國光
 しょおしゃ、あしとしゅきょうせいニコライ
 照者使徒主教聖
 よ、なんちのぼくぐんのたあめ、および
 爾羊群爲及
 ぜんせかいのために、いのちをたもうせい
 全世界爲生命賜聖
 さんしゃにいのりたまえ。
 三者祈給

【 日本の使徒聖ニコライのコンダク 第4調 】

こうえいはちちとこおとせいしんにき
 光榮父子おと聖神歸
 す、
 せいせいしゃあしとせいニコライよ、わが
 成聖者使徒聖我
 くになんちをたびびとおよびいほうじんとうけ
 國爾旅人及異邦人受
 しに、なんちははじめわがくににおいておの
 爾初我國於己
 れをがいらいしゃとしりたれども、ハリストスの
 外來者知

ひかりとあたたかきをながし、なんぢのて
光 暖 流 爾 敵

きをぞくしんのことなあし、かれらにか
屬 神 子 爲 彼 等 神

みのおんちようをあたえ、ハリストスのきょうかいをたて
恩 寵 與 教 會 建

たり、いまこのきょうかいのためいのり
今 此 教 會 爲 祈

たまあえ、けだしわれらそのしよしはなん
給 蓋 我 等 其 諸 子 爾

ぢによぶ、わがよきぼくしゃよ、よろこ
呼 我 善 牧 者 慶

べよ。

【 復活のコンダク 第6調 】

いまもいつうもよよに、アミン。
今 何 時 世 世

いのちのげんいたるハリストスかみはいのちを
生 命 原 因 神 生 命

ほどこすてをもつてしせしものをくらきた
施 手 以 死 者 の 暗 谷

によりいだして、ふくかつをじんるいに
出 復 活 人 類

た ま え り 、 し ゅ う じ ん の き ゅ う せ い し ゅ 、 ふ
 賜 衆 人 救 世 主 復
 く か つ と い の ち 、 お よ び し ゅ う じ ん の か み な
 活 生 命 及 衆 人 神
 れ ば な あ り 。

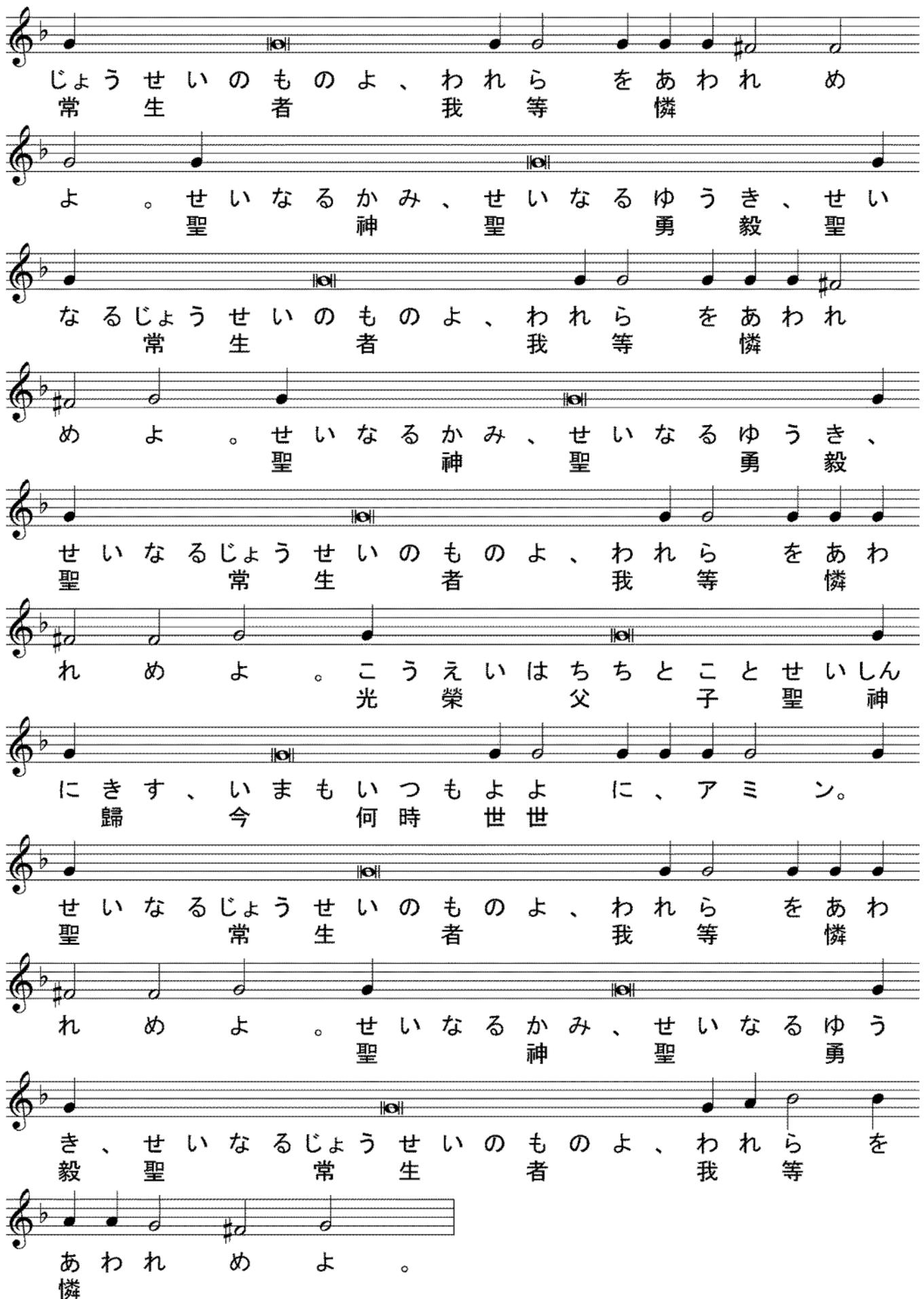
司祭) (黙誦：聖なる神、聖者の中に息い、セラフィムより聖三の聲を以て歌頌せられ、
 ヘルヴィムより讚榮せられ、悉くの天軍より伏拜せられ、萬物を無より有と
 なし、人を爾の像と肖とに依りて造り、爾が諸の賜を以て之を飾り、
 願う者に智慧と明悟とを與え、罪を行なう者を棄てずして、其救の爲に痛悔
 を立て、我等卑しくして不當なる爾の諸僕を、此の時に於ても、爾が聖な
 る祭壇の光榮の前に立ちて、爾に當然の伏拜讚榮を奉るに堪うる者と
 なしし主宰よ、爾親ら我等罪人の口よりも聖三の歌を受け、爾の仁慈を
 以て我等に臨み、我等に凡そ自由と自由ならざる罪を赦し、我が靈と體と
 を聖にし、我等に生涯善功を以て爾に務むるを得せしめ給え、聖なる生
 神女と古世より爾の喜を爲しし諸聖人との祈禱に依りてなり、)

司祭) 蓋我が神よ、爾は聖なり、我等光榮を爾父と子と聖神に献ず、今も何時も世世
 に、

ア ミ ン。

【 聖三祝文 】

せ い な る か み 、 せ い な る ゆ う き 、 せ い な る
 聖 神 聖 勇 毅 聖



じょうせいのもものよ、われらをあわれめ
常 生 者 我 等 憐

よ。せいなるかみ、せいなるゆうき、せい
聖 神 聖 勇 毅 聖

なるじょうせいのもものよ、われらをあわれ
常 生 者 我 等 憐

めよ。せいなるかみ、せいなるゆうき、
聖 神 聖 勇 毅

せいなるじょうせいのもものよ、われらをあわ
聖 常 生 者 我 等 憐

れめよ。こうえいはちとことせいしん
光 榮 父 子 聖 神

にきす、いまもいつもよよに、アミン。
歸 今 何 時 世 世

せいなるじょうせいのもものよ、われらをあわ
聖 常 生 者 我 等 憐

れめよ。せいなるかみ、せいなるゆう
聖 神 聖 勇

き、せいなるじょうせいのもものよ、われらを
毅 聖 常 生 者 我 等

あわれめよ。
憐

司祭) (黙誦：主の名に依りて來たる者は崇め讃めらる、ヘルヴィムに座する者よ、爾は其國

こうえい ほうざ あ つね あが ほ いま いつ よよ
の光 榮の寶座に在りて恒に崇め讃めらる、今も何時も世に、)

【 プロキメン 提綱 主日第6調 】

司祭) ^{つつし き} 慎みて聴くべし、^{しゅうじん へいあん} 衆人に平安、

誦經) ^{なんぢ しん} 爾の神にも、

司祭) ^{えいち} 睿智、

誦經) ^{しゅ なんぢ たみ すく なんぢ ぎょう ふく くだ たま} プロキメン、主よ、爾の民を救い、爾の業に福を降し給え、

しゅよ、なんぢのたみをすくい、なんぢのぎょうに
主 爾 民 救 爾 業
ふくをくだしたまあえ。
福 降 給

誦經) ^{しゅ われなんぢ よ われ かため わ たため もだ なか} 主よ、我爾に呼ぶ、我の防固よ、我が爲に黙す母れ、

しゅよ、なんぢのたみをすくい、なんぢのぎょうに
主 爾 民 救 爾 業
ふくをくだしたまあえ。
福 降 給

誦經) ^{しゅ なんぢ たみ すく} 主よ、爾の民を救い、

なんぢのぎょうにふくをくだしたまあえ。
爾 業 福 降 給

【 アポストロス 使徒經 176端 コリント後書4章6~15節 】

司祭) ^{えいち} 睿智、

誦經) ^{せいしと じん たつ こうしょ よみ} 聖使徒パウエルがコリント人に達する後書の讀、

司祭) ^{つつし き} 謹みて聴くべし、

誦經) ^{けいてい くらやみ ひかり て めい かみ われら こころ たら} 兄弟よ、暗より光の照ることを命ぜし神は、我等の心を照せり、イイススハリ

おもて かみ こうえい し ちしき もつ われら かがやか ため しか われら
ストスの 面にある神の光 榮を知る知識を以て我等を 輝 さん爲なり。然れども我等は

こ たから つち うつわ おさ ぼくだい ちから かみ よ われら よ ため われらしほう
此の 寶を土の器に藏む、莫大の能が神に由りて、我等に由らざらん爲なり。我等四方

かんなん う きゅう けわ さかい お のぞみ うしな きんちく
より患難を受くれども、窮せず、險しき境に處れども、望を失わず、窘逐せらるれ

す たお ほろ つね み しゅ し じょう お
ども、棄てられず、倒さるれども、亡びず。常に身に主イエスの死の 状を佩ぶ、イエス

いのち われら み あらわ ため けだしわれらい もの つね ため し わた
の生命も我等の身に 顯れん爲なり。蓋我等生ける者は、常にイエスの爲に死に付さる、

いのち われら し にくたい あらわ ため か ごと し われら うち おこな
イエスの生命も我等の死すべき肉體に 顯れん爲なり。是くの如く死は我等の中に 行い、

いのち なんぢら うち おこな しか しる われしん ゆえ い ごと われ
生命は爾等の中に 行うなり。然れども録して、我信ず、故に言えりと、あるが如く、我

ら か ごと しんこう しん たも しん ゆえ い しゅ ふくかつ もの
等も此くの如き信仰の神を有ちて信ず、故に言う、主イエスを復活せしめし者は、イ

もつ われら ふくかつ かつなんぢら とも おのれ まえ た し よ
イススを以て我等をも復活せしめ、且爾等と偕に己の前に立たしめんことを知るに因る。

けだしばんじ なんぢら ため ゆたか おんちよう おお ひと かんしゃ よ かみ こうえい
蓋萬事は爾等の爲なり、豊かなる恩寵が、多くの人の感謝に由りて、神の光榮の

あふ いた ため
溢るるを致さん爲なり。

(比較用 口語訳)「やみの中から光が照りいでよ」と仰せになった神は、キリストの顔に輝く神の栄光の知識を明らかにするために、わたしたちの心を照して下さったのである。しかしわたしたちは、この宝を土の器の中に持っている。その測り知れない力は神のものであって、わたしたちから出たものでないことが、あらわれるためである。わたしたちは、四方から患難を受けても窮しない。途方にくれても行き詰まらない。迫害に会っても見捨てられない。倒されても滅びない。いつもイエスの死をこの身に負っている。それはまた、イエスのいのちが、この身に現れるためである。わたしたち生きている者は、イエスのために絶えず死に渡されているのである。それはイエスのいのちが、わたしたちの死ぬべき肉體に現れるためである。こうして、死はわたしたちのうちに働き、いのちはあなたがたのうちに働くのである。「わたしは信じた。それゆえに語った」としてあるとおりの、それと同じ信仰の霊を持っているので、わたしたちも信じている。それゆえに語るのである。それは、主イエスをよみがえらせたかたが、わたしたちをもイエスと共によみがえらせ、そして、あなたがたと共にみまえに立たせて下さることを、知っているからである。すべてのことは、あなたがたの益であって、恵みがますます多くの人に増し加わるにつれ、感謝が満ちあふれて、神の栄光となるのである。

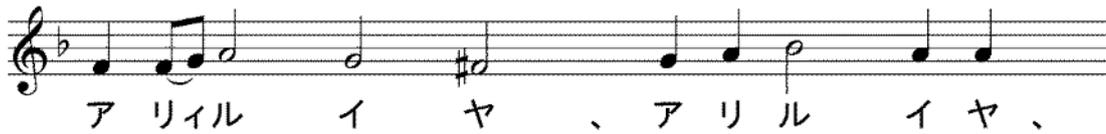
【 アリルイヤ 主日第6調 】

司祭) なんぢ へいあん
爾に平安、

誦經) なんぢ しん
爾の神にも、

司祭) えいち
睿智、

誦經) アリルイヤ、

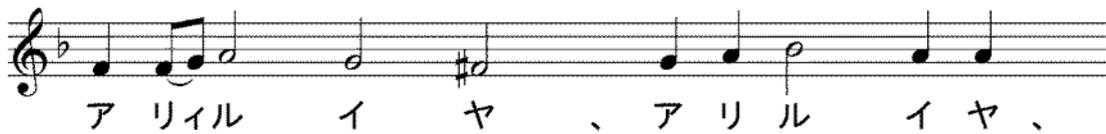


アリル イ ヤ 、 アリル イ ヤ 、



アリル イ ヤ 。

誦經) ^{しじょうしゃ おおい した お もの ぜんのうしゃ かげ した やす} 至上者の覆の下に居る者は、全能者の蔭の下に安んず、

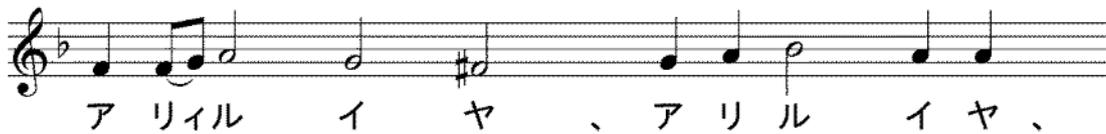


アリル イ ヤ 、 アリル イ ヤ 、



アリル イ ヤ 。

誦經) ^{しゅ い なんぢ われ かくれが われ ふせぎ われ たの ところ われ かみ} 主に謂う、爾は我の避所、我の防禦、我が頼む所の我の神なりと、



アリル イ ヤ 、 アリル イ ヤ 、



アリル イ ヤ 。

司祭) (^{ひと あい しゅさい わ こころ かみ し ちえ いさぎよ ひかり かがや わ しねん} 黙誦: 人を愛する主宰よ、我が心に神を知る智慧の浄き光を輝かし、我が思念

^{め ひら なんぢ ふくいん おしえ さと たま わ うち なんぢ ふく いましめ} の目を啓きて、爾が福音の教を悟らしめ給え、我が衷に爾の福たる誠を

^{おそ おそれ い われら ことごと にくたい よく ふ およ なんぢ よろこ ところ} 畏るる畏をも入れて、我等が悉くの肉體の慾を踏み、凡そ爾の喜ぶ所

^{おも か おこな ぞくしん せいかつ す いた たま けだし かみ} を思い且つ行いて、屬神の生活を過ぐるを致させ給え、蓋ハリストス神よ、

^{なんぢ わ たましい からだ こうしょう われらなんぢ なんぢ むげん ちち しせいしぜん} 爾は我が靈と體との光照なり、我等爾と爾の無原の父と至聖至善にし

^{いのち ほどこ なんぢ しん こうえい けん いま いつ よよ} て生命を施す爾の神とに光榮を獻ず、今も何時も世世に、アミン。)

【 ^{エヴァンゲリオン} 福音經 ルカ福音書 17 端 5 章 1~11 節 】

司祭) ^{えいち つつし た せいふくいんけい き しゅうじん へいあん} 睿智、肅みて立て聖福音經を聴くべし、衆人に平安、



なんぢのしんにも。
爾 神

司祭) ルカ傳の聖福音經の讀、



しゅよ、こうえいはなんぢにきし、こうえい
主 光 榮 爾 歸 光 榮



はなんぢにきす。
爾 歸

司祭) 謹みて聴くべし、彼の時イイス、ゲンニサレトの湖の濱に立ちて、二の舟の湖

に在るを見たり、漁者は舟を離れて網を洗えり。彼はシモンに屬する一の舟に登りて、

少しく岸より離れんことを請い、坐して舟より民を教えたり。語り竟りて、シモンに謂え

り、深き處に移り、網を下して、漁せよ。シモン對えて曰えり、夫子よ、我終夜

勞して、得る所なかりき、然れども爾の言に依りて、我網を下さん。既に之を行

いて、魚を圍めること甚多く、網裂くるに至れり。乃他の舟に在る侶を招きて、來

り助けしむるに、彼等來りて、魚二の舟に切ちて、幾ど沈まんとせり。シモンペトル之

を見て、イイスの膝下に伏して曰えり、主よ、我を離れよ、我罪人なればなり。蓋彼

及び彼と偕に在りし者は、皆漁りたる魚の爲に甚驚けり、シモンの侶たりしゼヴ

エデイの子イアコフ及びイオアンも亦然り。イイスシモンに謂えり、懼るる勿れ、今より

後爾人を漁らん。彼等舟を岸に曳き、一切を捨てて、彼に従えり。

(比較用 口語訳) イエスはゲネサレ湖畔に立っておられたが、そこに二そうの小舟が寄せてあるのを
ごらんになった。漁師たちは、舟からおりて網を洗っていた。その一そうはシモンの舟であったが、
イエスはそれに乗込み、シモンに頼んで岸から少しこぎ出させ、そしてすわって、舟の中から群
衆にお教えになった。話がすむと、シモンに「沖へこぎ出し、網をおろして漁をしてみなさい」と
言われた。シモンは答えて言った、「先生、わたしたちは夜通し働きましたが、何も取れませんでした。
しかし、お言葉ですから、網をおろしてみましよう」。そしてそのとおりにしたところ、おびた
だしい魚の群れがはいって、網が破れそうになった。そこで、もう一そうの舟にいた仲間に、加勢
に来るよう合図をしたので、彼らがきて魚を両方の舟いっぱいに入れた。そのために、舟が沈みそ
うになった。これを見てシモン・ペテロは、イエスのひざもとにひれ伏して言った、「主よ、わたし

から離れてください。わたしは罪深い者です」。彼も一緒にいた者たちもみな、取れた魚がおびただしいのに驚いたからである。シモンの仲間であったゼベダイの子ヤコブとヨハネも、同様であった。すると、イエスがシモンに言われた、「恐れることはない。今からあなたは人間をとる漁師になるのだ」。そこで彼らは舟を陸に引き上げ、いっさいを捨ててイエスに従った。

しゅよ、こうえいはなんぢにきし、こうえい
 主 光 榮 爾 き 歸 し 光 榮

はなんぢにきす。
 爾 き 歸 す。

※ 聖体礼儀③（金ロイオアン）へ